

令和3年度事業報告

1 概要

令和3年度は、新型コロナウイルスの感染対策としてワクチン接種が進んだにもかかわらず、変異株オミクロンの感染が拡大し、年度末においても未だ終息が見えない状況が続きました。薩摩川内市シルバー人材センター（以下「センター」）も、これらの影響により入会説明会の開催制限や公共施設の利用制限などで、事業実績として少なからず影響を受けました。

会員数については、会員の勧誘や各種対策を積極的に取り組みましたが、前年度未就業者の年度当初における大量脱退が響き目標数を下回りました。

請負・委任事業では、昨年度に続き受託件数・就業延人員は減少しましたが、契約金額については微減にとどまりました。一方、派遣事業については、コロナの影響にもかかわらず順調に事業が進んだことから前年度実績を上回ることができました。

安全・適正就業については、安全パトロールや「シルバーだより」による安全に対する注意喚起を積極的に取り組んだ結果、賠償事故件数は横ばいで推移し、傷害事故については昨年度より減少したところです。

ボランティア活動については、一部コロナの影響で実施できない地域がありましたが、実施した地域については、地域社会への貢献とセンター存在の周知ができました。

事業運営については、引き続き業務の効率化や経費の節減に努めることで、支障が生じないようにいたしました。

2 目標値に対する実績（派遣事業を含む。）

| 区 分 | 会員数 | 受託件数 | 就業延人員 | 契約金額 |
|-----|-------|---------|----------|------------|
| 目標値 | 610 人 | 5,921 件 | 55,128 人 | 302,050 千円 |
| 実 績 | 574 人 | 5,757 件 | 54,648 人 | 299,282 千円 |

3 実施内容

(1) 会員組織の充実と活性化

- ① センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」の精神を基本に、会員相互の連帯感や作業の効率化・活性化を目指しました。
- ② 理事会や各種委員会等については、コロナの影響で多くの会議が中止やオンライン開催となり、満足のできる内容の実施はできないところでした。
- ③ 会員の高齢化により、地域班・職群班など中心となるリーダーの育成が思うように進まない班もあり、引き続きチームワークの醸成を進める必要があります。
- ③ 草払い作業や剪定作業など主体となる外作業については、会員の高齢化や減少により就業に支障が生じないよう、会員の補充・育成を進めました。
- ④ 技能講習や接遇研修については、コロナの影響等で実施できないところでしたが、センターのイメージアップの周知などで会員の技量や資質の向上に努めました。
- ⑤ カラオケ同好会をはじめ各種同好会活動を会員自らの企画で実施し、会員相互交流の場の充実を図りました。

- ⑥ 刈払い機の替刃等の斡旋と配分金からの引き落としを行うなど、会員の利便性向上に努めました。

※刈払い機の替え刃 872枚、ヘルメット9個

(2) 会員確保運動の強化

- ① 定例会説明会以外に臨時説明会を実施するなど、新規入会者が加入しやすい環境を作るとともに、会員一人一人が新規会員の確保に取り組みました。
- ② 剪定・整枝講習を開催しながら、受講者への入会勧誘を行いました。
- ③ 「広報せんでがわ」や「シルバーだより」の記事内容を充実し、読みやすい広報紙を作成して会員募集を広く周知しました。
- ④ 公共職業安定所との情報交換や求人セミナーに参加するなど連携強化による普及啓発活動に取り組みました。
- ⑤ 会員募集の新聞折り込みチラシや大型量販店への会員募集チラシの配置、その他郵便局の現金封筒広告を充実強化し新規会員の確保に努めました。
- ⑥ ホームページの充実や地域FMラジオCMを引き続き活用し、会員の入会促進や就業機会の新規拡大に努めました。

(3) 就業機会の開拓・拡大

- ① リピート率の向上を目指すため、常に受注者の立場にたった就業にこころがけ、地域に期待され信頼されるセンターとなるように努めました。
- ② 就業場所においては「のぼり旗」を設置するとともに、服装や丁寧な就業等に努め、センターのイメージアップの向上を図りました。
- ③ 行政機関や公共的団体との意見交換や連携を密にして、新たな公共事業の受注拡大に努めました。
- ④ 一般労働者派遣事業においては、高齢者活用・現役世代雇用サポート事業を積極的に活用し、案内チラシの効果的な配布とコーディネーターを引き続き配置し派遣事業先の新規開拓に努めました。
- ⑤ 「シルバーだより」や市の「広報用マガジンラック」の活用を図るとともに、祭りやイベント等における事業のPRを図りました。
- ⑥ 刃物研ぎ事業を広く市民へ周知するとともに、会員の職務能力の分析及び地域が求める新たなサービスについて研究を行いました。

(4) 安全・適正就業の推進

- ① シルバー就業は安全第一であり、「安全はすべてに優先する」という会員心得を最優先に、作業現場の事前確認を確実にを行うとともに、作業開始前のミーティング実施による危険個所の把握など安全就業に努めました。
- ② 会員同士の技術を共有し、気軽に指導・助言が言える環境とすることで、お互いの技術力の向上と明るい職場づくりに努めました。
- ③ 剪定・整枝講習を開催し、既存会員の安全適正教育に努めました。
- ④ 全国規模の賠償責任保険制度へ移行したことに伴い、免責（自己負担）がなくな

ることから、事故等取扱基準を会員に周知して再発防止に努めました。

- ⑤ 発注者への迷惑行為や無届就業は不適正就業行為となることを会員に周知し、安全適正就業委員会において、ケガや事故等の検証を行い再発防止に努めました。
- ⑥ 毎月10日の安全の日に安全パトロールを実施しながら、作業現場での看板やのぼり旗の設置や安全ベストの着用を徹底し、会員の事故防止に努めました。
- ⑦ 発注者や近隣者からの苦情や就業中における事故やケガの発生状況を、毎月発行する「シルバーだより」で会員へ周知し事故や苦情の防止に努めました。

※安全パトロール実施箇所数 23カ所

(川内：13、東郷：2、樋脇：2、入来：3、祁答院：1、甕：2)

(5) 地域社会への貢献

一部に新型コロナウイルスの影響で実施できない地域もありましたが、公益法人として地域社会への貢献と普及啓発を兼ねた活動をそれぞれの地域で実施してもらい、シルバーが地域社会に喜ばれ信頼されるように努めました。

※ボランティア活動参加者 58名

(6) 事務局体制の充実と強化

- ① センター職員と会員が風通しのよい関係を保つために、会員・理事・役職員全体が働きやすく、明るい環境づくりに努めました。
- ② 見積り専門員を引き続き配置し、制度の定着や業務見直しを図るなど職員の資質向上に努めました。
- ③ コロナ感染の影響により、他センターへの先進地研修や意見交換については、一部を除き実施できませんでした。
- ④ 収支の見込みを適切に行い、事務局の経費節減に努めながら堅実な運営に努めました。
- ⑤ 集約した甕支所については、専門員を配置し事務の円滑な推進に努めた結果、大きな支障は生じず実績も伸ばすことができました。
- ⑥ 適格請求書等保存方式（インボイス制度）や配分金振込手数料の有料化については、機会あるごとに調査研究を進め支障のないように対応いたしました。

令和3年度事業報告には、法人法施行規則第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」がないため、附属明細書は作成していません。